

## 1 情報収集・伝達訓練

災害に際し、不確かな情報やデマなどで住民が混乱しないように、自主防災組織がいち早く周囲の情報をつかみ、正確な情報を伝えることが大切です。そのためにも、情報の収集や伝達方法を整理し、確認しておきましょう。

### (1) 自主防災組織（町内・集落）での情報収集

#### (ア) 災害発生時

- ①住民の所在・安否情報や、被害情報等を自主防災組織で集約します。
- ②報告内容に応じて、救助等に必要な人員、必要な物資調達や配置を行います。
- ③市役所、消防本部、電力会社、ガス会社などへ被害状況を報告し、必要に応じて支援を要請します。

#### ポイント

- ・時機に適した報告  
第1報は概要だけでもよいので報告し、確認情報は第2報以降にするなど時機に適した報告が大切です。
- ・事実の確認  
災害時には、噂やデマが流れがちです。情報はできるだけ確認すること。
- ・情報の一元化  
市や消防本部等に連絡する場合には、自主防災組織で報告担当者を決めておき、互いに矛盾する報告がなされないようチェックする体制をつくる。「異常なし」も重要な情報となるため定期的に報告すること。

### (イ) 気象や河川水位などに関する情報収集

- ・気象庁 <http://www.jma.go.jp/>
- ・新潟県河川防災情報システム  
<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen/>
- ・新潟県土砂災害警戒情報システム  
<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou/>

### (2) 情報伝達訓練

市の対策本部など、防災関係機関からの情報や指示事項、ラジオやテレビから得た情報を正確、迅速に住民に伝達する訓練。

#### ポイント

- ・伝達は簡単な言葉で、難しい言葉を避ける。
- ・口頭だけではなく、メモ程度でもいいので文書を渡しておく。

- 情報を正確に伝達するために、受信者に内容を復唱させる。
- 流言には数字が絡むことが多いので、数字の伝達には特に注意する。
- 各世帯への情報伝達を正確かつ能率的に行うため、あらかじめ、伝達経路を定めておく。
- 視聴覚等に障がいがある方、日本語が不自由な外国人への情報の伝達について配慮する。